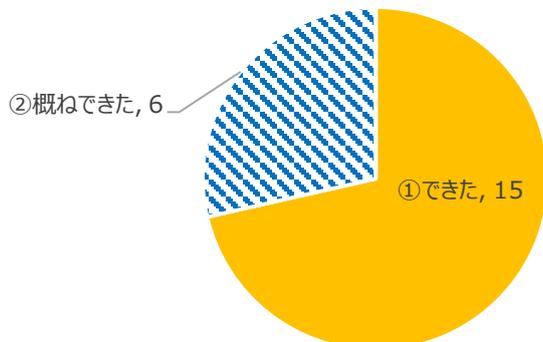


令和4年度 災害時要配慮者の避難訓練 アンケート結果

9/25避難訓練実施 参加者23人(家族・近隣住民13人、関係者10人) アンケート回収21人(回収率100%)

1. 平常時から災害時の危機管理意識を高めることができましたか



選んだ理由

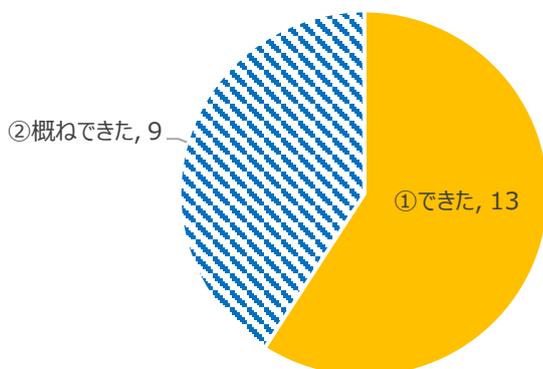
①できた

- ・大人数で実行するときのご近所同士の意識ができたように思う。
- ・日常時は、災害時のことをあまり考えないので、考えるいい機会になった。
- ・実施での訓練なので。
- ・何を優先しないといけないかがよく分かりました。
- ・専門職の方の説明が必要。実際にはいないと思う。
- ・2回目の参加でしたが、去年確認していたことが忘れていたところが多かったので。
- ・訓練はやってみないと気が付かないことがありますので。
- ・昨年と同様。ご近所の方が沢山参加していただき良かったです。また自分から率先して動いてくださり助かりました。
- ・訓練参加2回目。
- ・避難想定した意識で。物品の用意、リスク管理、避難経路の確保等が必要であると感じた。
- ・実際に訓練通りにできるかは分からないが、南海トラフは必ずくるので、このような具体的な訓練を通して意識を高めることができた。

②概ねできた

- ・初参加の方は、訓練を通して意識を高められたのではないかと。今回は台風接近もあり、危険が身近なものに感じられたが、もう少し臨場感があってもいいと思う。(実際の放送を使用する、呼びかけの声出しをするなど)

2. 災害発生時における要配慮者の具体的な避難行動が理解できましたか。



選んだ理由

①できた

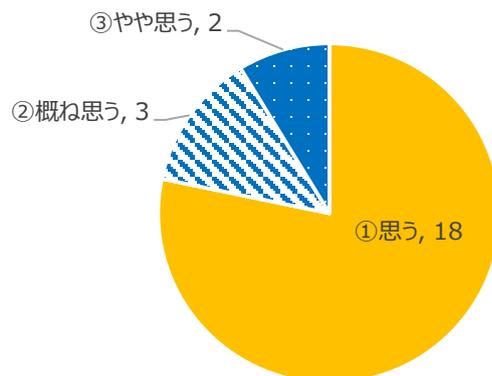
- ・どのようなシーンで、どう動くか少しわかった気がする。
- ・時間がかかりかかると分かった。
- ・時間的制限の中の行動のポイント。

- ・呼吸器とか、車いすを動かすにあたり、頭をどちらにするかなど、常に危険予測の元、していくことを学びました。
- ・理解はできたけど、体の行動が不安です。
- ・事前の写真だけではなく、細かな指示があり大変参考になった。チューブの位置、手足元の確保
- ・二度目の訓練であったため、一通りの流れを再確認でき改めて理解できた。

②概ねできた

- ・流れは概ね理解できたが、時間が経つと忘れてしまうかもしれない。車椅子操作方法等の資料があってもいいかも。
- ・難しいところもあるがなんとか？
- ・このような避難訓練は理解できたとしても一回では分からないので、毎年参加したい。また、忘れるので。
- ・家族や看護師スタッフの指示を観察している避難協力者も自分事としてとらえていた。

3. 今回の避難訓練は、今後地域の災害時要配慮者の避難体制の構築につながるといいますか。



選んだ理由

①思う

- ・第一に動くであろうご近所の方の意識は高い気がするので、もう少し細かい設定が必要かも？
- ・家族の実では部地理的に難しい支援もあると思います。支援者がいない場合もあるので、近隣住民の方の協力が得られるのはすごい良いと思いました。
- ・他人ごとにしらないこと。
- ・コミュニティのつながりの大切さを実感しました。
- ・繰り返し訓練することで、障害者へ対する気持ちに変化が生まれると思います。
- ・実際に体感してみることで得られるものは大きいと感じた。動画として残っていることもいいと思う
- ・初めて地区消防団や自治会の班長さん等も参加いただき、「災害時要配慮者の避難訓練」への理解や意識が少しずつ広まってきたように感じられた。
- ・地域の方々の理解があつてこそこの訓練なので、大変ありがたい。継続的に実施することが体制の構築につながると思う。

②概ね思う

- ・昨年度に加えて自治会班長・副班長や消防団の参加があり、少しずつ広がりがつつある。
- ・災害時要配慮者についての理解を深めたり、避難のあり方について考えたりする良い機会になったと思う。参加者から意見、感想等たくさん聞けて良かった。

4. 今回の災害時要配慮者の避難行動の感想やご意見等をご記入ください。

- ・また次回も参加できればと思います。
- ・災害時要配慮者の方はたくさんいると思います。いろいろなところでこの取り組みを進めていただけたらと思います。
- ・実際の災害が発生した時、いかにスムーズにできるかがポイントになると思います。
- ・車いすの操作の手順書があれば、どうにか操作できると思います。
- ・何度も練習が必要だと思いました。
- ・もう少し訓練が必要であること。
- ・本人・家族の大変さがよく分かりました。できるだけ協力させていただきます。
- ・水害時や、火災時なども検討が必要かと。
- ・避難警戒レベルのどのレベルで共助に来ればいいのか、決まっているとありがたいです。
- ・昨年の課題がクリアできていたのですごく分かりやすかったです。

- ・避難する準備の時に、誰が何の担当をするのか、声がけすると互いに相手の動きを理解してスムーズに進めると思います。人工呼吸器の移動の時、呼吸器の置いている台は移動できないよう車椅子まで動かせると楽になるし安全だと思いました。
- ・皆様、撮影に夢中になって道路で危険だと思いました。
- ・いざという時には、なかなか行動に移すことが難しい。訓練の手順だけでなく、近所・関係機関等、人と繋がっておくということも大切だと感じた。一人では難しい部分を声をかけ合うことで備えていけると感じた。
- ・少しに段差の大変さ、車いすやベッドの扱い方、スロープでの移動、車いすの動かす向きなど、少しですが頭に入れて、何か力になればと思います。
- ・避難訓練の回数をこなして体で覚えるくらいでないと実際の時にはできないのかなと思いました。
- ・岩本先生がこのような積極的に地域に働きかけることに敬意を表します。地域に障害者がいて、その方とともに生活し避難するという意識形成に役立つと思う。
- ・昨年同様、ご近所さんか積極的に関わってくださり、ありがたかった。
- ・避難の手順(特にベッドから車いすへの移乗)については、年一回の訓練では習得は難しい。例えば、訓練前に車椅子の操作等についてTVに移して説明する。手順を写真付きで掲示しておく、見てもらいながら操作してもらおう等、ご近所さんが自分自身で確認しながら操作等ができるようにすればよいと思った。
- ・大雨で西方向から水が流れてきた場合の避難は難しい。地震以外の非常変災時についても、考えておく必要があると思った。ただ、災害時要配慮者の避難は命の危険と隣り合わせであり、どの時点で、どこへ、どのように避難すればよいのかの判断は大変難しい。
- ・1年に一度の訓練では避難の手順や車椅子操作等は忘れてしまうが、「試行錯誤しながら訓練を重ねる。」体験が重要であることを改めて理解した。
- ・事前に作成した車椅子の操作や避難手順の資料が枠に立ったかどうか知りたい。
- ・今回は「震度5以上で声をかける。」を提示した。「どんな災害の時に何を基準にどこへ避難するか」を明確にしておく必要がある。
- ・二度目の訓練であったため、避難行動の段取りが良くなったと感じた。今後回数を重ねて、円滑に行動を勧めることができれば良いと思う。